

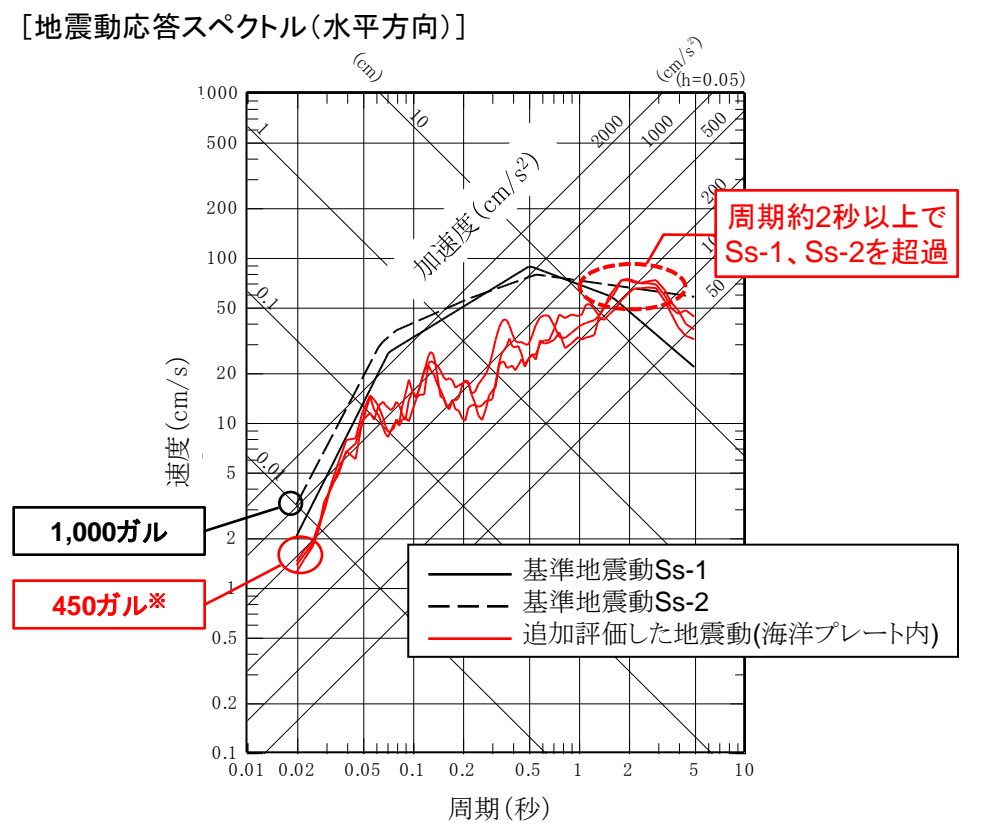
女川原子力発電所2号機 新規制基準適合性審査における基準地震動の追加評価について

- ❑ 女川原子力発電所2号機の新規制基準適合性審査申請においては、2011年東北地方太平洋沖地震等での知見を踏まえ、耐震設計の基準となる地震動(基準地震動)について「**Ss-1(640ガル)**」および「**Ss-2(1,000ガル)**」を設定し、現在、原子力規制委員会の審査においてその妥当性が審議されているところです。
- ❑ このたび、「海洋プレート内地震」による地震動について、さらなる不確かさの検討が必要との審査会合におけるコメント等を踏まえ、より厳しい条件で地震動の追加評価をしました。これにより得られた地震動は、基準地震動Ss-1およびSs-2を一部の周期帯で上回るものです。
- ❑ なお、今回の追加評価による発電所の設備への影響はないものと考えておりますが、今後、詳細な評価を実施することとしております。

【地震動の評価】 注:表中の加速度は、すべて水平方向の加速度

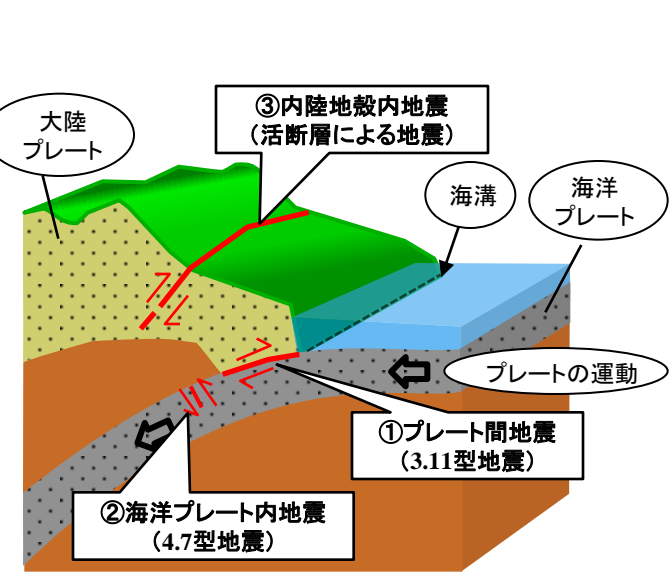
		適合性審査申請時の評価		追加検討の状況(審査中)	
震源を特定して策定する地震動	①プレート間地震	2011年東北地方太平洋沖型地震(3.11型地震)を考慮	基準地震動Ss-1 640ガル	左記地震について断層モデルによる評価を実施	基準地震動Ss-1 640ガル 新たな地震動(3/4公表済み) 717ガル
	②海洋プレート内地震	2011年4月7日宮城県沖型地震(4.7型地震)を考慮	基準地震動Ss-2 1,000ガル	左記地震についてより厳しい条件で追加評価 [⇒参考2参照]	基準地震動Ss-2 1,000ガル 新たな地震動 検討中*
	③内陸地殻内地震	F-6断層～F-9断層による地震を考慮		左記地震および仙台湾の断層群による地震を考慮	
震源を特定せず策定する地震動		従来知見(450ガル)		留萌地震を考慮	新たな地震動(4/21公表済み) 620ガル

* 今後、追加評価に基づく新たな地震動の設定について検討していく。

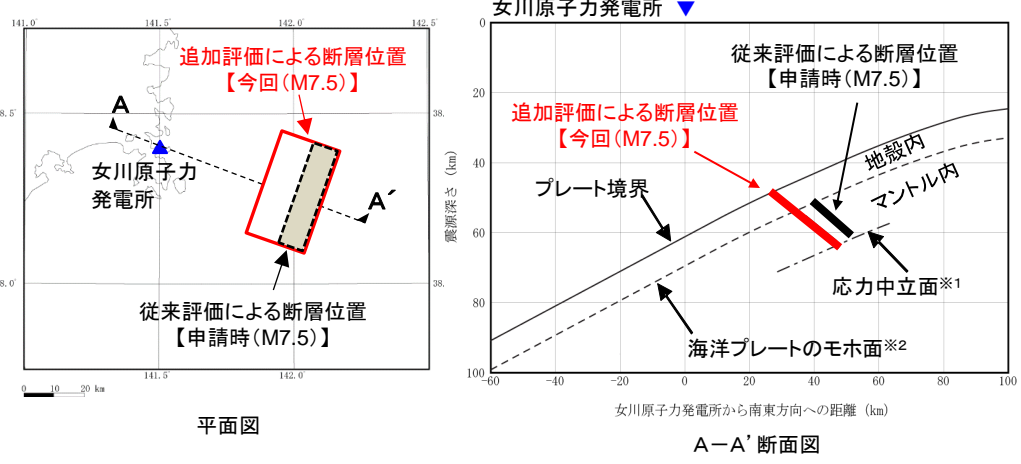
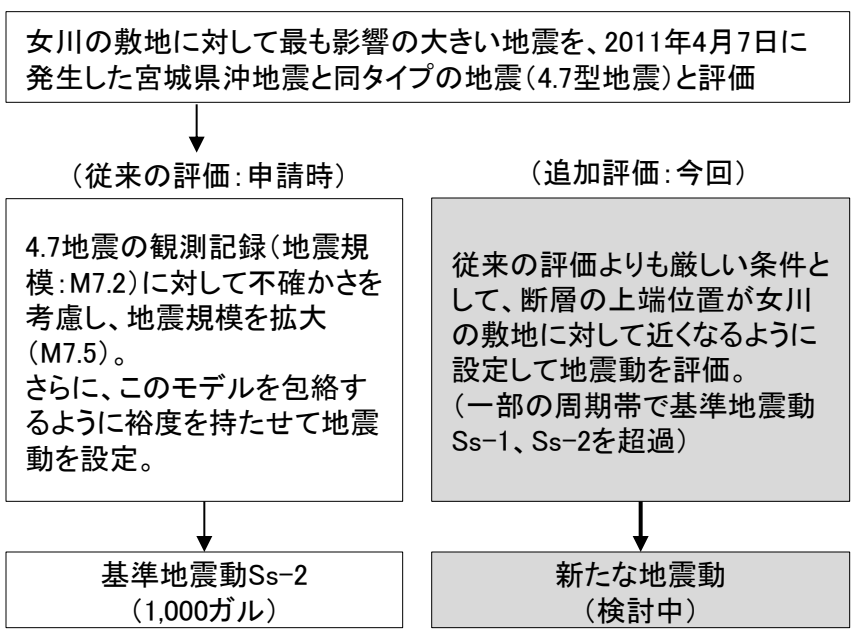


* 基準地震動Ss-1、Ss-2を超過した地震動のうち、最大加速度が最も大きなものの値について記載。

[参考1] 地震の発生様式イメージ



[参考2] 海洋プレート内地震の追加検討



※1 沈み込んだプレート内部では、プレートの厚さ(深さ)方向にプレートを押し縮める力(圧縮)から引っ張る力(張力)へ変化するが、その力が切り替わり、地震が発生しない状態となる位置(面)。
 ※2 地殻とマンテルの境界面。地殻とマンテルでは、それぞれ物性(硬さ)が異なる。